

## 高校改革推進計画

### 後期再編整備計画（中間まとめ）

[平成22～26年度]

～特色・魅力・活力ある学校づくりに向けて～

平成20年4月30日

大分県教育委員会

はじめに

情報化や規制緩和など社会が大きく変化する中で、子どもたちの興味・関心、能力・適性、進路希望等は益々多様化してきています。さらに、中学校卒業生数の急激な減少は多くの小規模校を生み出すこととなりました。

このような状況の中、現実の社会を目前にした高校生が多くの友人と出会い互いに切磋琢磨できることや、十分な教員を配置して高校としての専門性を高めること、多くの部活動の中から選択できること、さらには、これまで本県にはなかった新しいタイプの学校を設置・導入することなどにより、高校教育にふさわしい充実した教育環境を整備することが重要です。こうした観点から平成17年3月に策定した「高校改革推進計画」の「再編整備指針」に基づき、現在、平成21年度までの「前期再編整備計画」を着実に推進しているところです。

平成22年度から26年度までの「後期再編整備計画」につきましても、引き続き同様の考え方を基本に据え、前期再編整備計画の成果・課題、進捗状況等を検証するとともに「再編整備指針」に基づいて策定することとしています。

そのため、平成19年10月、県内のPTA関係者、学校教育関係者、学識経験者、産業経済関係者等の代表者からなる高等学校再編整備懇話会を開催して、これまでの「高校改革推進計画」の取組状況について説明・検証するとともに、広くご意見をお伺いしたところです。ご意見をお伺いする中で後期再編整備計画に対する教育委員会としての一定の方向性を示してほしいとの意見があり、平成20年1月、後期再編整備計画の策定に向けた検討素案を示しました。その後、県内各地域での懇話会や説明会を重ね、それぞれの地域における再編整備の在り方について説明するとともに、ご意見・要望をお聞きしてまいりました。

教育委員会としてはこれまでの様々なご意見や要望書等を総合的に勘案しながら審議を重ね、再編対象校、校地、学科、学級数、統合方法等について示すなど、より具体的な「中間まとめ」として整理しました。

今後は、この「中間まとめ」についてパブリックコメント、地域別懇話会等により、広く県民からのご意見等をお聞きし、遅くとも秋頃までのなるべく早い時期に「後期再編整備計画」を決定したいと考えています。

## 目 次

1 後期再編整備計画期間	...	1
2 基本的な考え方	...	1
3 地域ごとの再編整備計画	...	2
4 統合方法	...	16
5 統合（開校）年度等	...	16

### 【参考資料】

「高校改革」の経緯	...	18
前期（平成17～21年度）再編整備計画の進捗状況	...	19
平成20年度全日制公立高等学校 学校規模別一覧 （第1学年学級数）	...	20

## 1 後期再編整備計画期間

平成22年度から26年度

## 2 基本的な考え方

高校改革推進計画（平成17年3月29日策定）の「再編整備指針」に基づき、地域の実情や学校を取り巻く状況等を総合的に勘案しながら計画を策定する。

### 再編整備指針

今後の中学校卒業予定者数の推移、学校数、普通科・専門学科・総合学科の配置等を勘案し、さまざまな生徒の学習ニーズに応じた新しいタイプの学校を設置するとともに、子どもたちが社会の変化に十分対応できるよう教育環境の整備を図る。

また、教育の機会均等という原点に立ち返り「子どもたちにとって、真に望ましい学校」という視点に立って進める。

(1) 県全体の適正な学校配置を勘案しながら、現在の各通学区域（6通学区域）内に、普通科高校と専門高校等、選択可能な学校を複数配置するとともに、さまざまな生徒の学習ニーズに対応するため、総合選択制高校や中高一貫教育校・独立単位制高校等の新しいタイプの学校の設置・導入に努める。

(2) 現在の各通学区域（6通学区域）内の学校・学科の発展的統合等により1学年6～8学級の適正規模化を図る。ただし、生徒や地域の実情及び学校・学科の設置状況等により、1学年4～5学級ができることも止むを得ない。

(3) 再編整備は、生徒数の減少傾向の下げ止まりが予想される平成26年度までを見据え、県全体の適正な学校配置を勘案しながら原則として生徒減少が著しい地域から順次取り組むこととする。

当面は、平成21年度までの再編整備計画を策定することとし、以降については、再編整備の進捗状況や成果、学校教育を取り巻く状況等を踏まえながら推進することとする。

### 3 地域ごとの再編整備計画

#### (要約)

地域	再編内容
中津・宇佐	<p>安心院高校は存続する。(連携型中高一貫教育の継続)</p>
別杵・速見	<p>山香農業高校と日出暘谷高校を統合する。 [校地：日出暘谷高校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業系学科・工業系学科と総合学科による総合選択制高校とする。 5学級程度(農業系学科1学級・工業系学科1学級・総合学科3学級程度)</li> <li>・山香農業高校の農場や宿泊施設等は、新設校及び農業系学科を設置する高校の施設として活用するとともに、県内の児童・生徒及び教職員等の実習の場、研修の場、体験の場としての新たな活用を図り、農業を通じて広く人材育成を推進する。</li> </ul>
	<p>別府青山高校と別府羽室台高校を統合する。 [校地：別府青山高校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科と外国語科による単位制高校とする。 6学級程度(普通科5学級・外国語科1学級程度)</li> <li>・外国語科を中心として、立命館アジア太平洋大学(APU)との連携をより一層強めるため高大連携を推進する協議会を設置し、生徒のニーズに対応した特色ある学校づくりをすすめる。</li> </ul>
大分・由布	<p>由布高校は、市民からの支援・協力体制を前提に連携型中高一貫教育を導入することにより、今後1学年4学級以上の学校として地域の生徒が確保できることの可能性について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携型中高一貫教育の導入にあたっては、市民の理解と協力体制が不可欠であり、地元中学校から由布高校への進学者が確実に増えることが見極められることが必要である。</li> </ul>
	<p>芸術緑丘高校は存続する。</p>
	<p>大分東高校の国際コミュニケーション科を廃止し、農業系学科を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科と農業系学科による総合選択制高校とする。 6学級程度(普通科4学級・農業系学科2学級程度)</li> <li>・農業系学科は、進学や新しいタイプの都市型農業を目指し、現山香農業高校の農場や宿泊施設等の有効活用も図る。</li> </ul>

地域	再編内容
白 津	<p>野津高校を廃止し、大分南高校に福祉系学科を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科と福祉系学科とする。 8学級程度（普通科6学級・福祉系学科2学級程度）</li> <li>・福祉系学科は、介護福祉士国家試験の受験資格が取得できる学科とする。</li> </ul> <hr/> <p>臼杵商業高校、海洋科学高校、津久見高校を統合する。[校地：津久見高校] 海洋科学高校は現在地で、その分校とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は、普通科・工業系学科・商業系学科による総合選択制高校とする。 6学級程度（普通科2学級・工業系学科2学級・商業系学科2学級程度）</li> <li>・分校は、水産系学科1学級とする。</li> </ul>
佐 伯	<p>佐伯豊南高校と佐伯鶴岡高校を統合する。 [校地：佐伯鶴岡高校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業系学科・工業系学科・福祉系学科と総合学科による総合選択制高校とする。 6学級程度（農業系学科1学級・工業系学科1学級・福祉系学科1学級・総合学科3学級程度）</li> <li>・福祉系学科は、介護福祉士の国家試験受験資格が取得できる学科とする。</li> </ul>
日田・玖珠	<p>玖珠農業高校と森高校を統合する。 [校地：玖珠農業高校]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科と農業系学科による総合選択制高校とする。 5学級程度（普通科4学級・農業系学科1学級程度）</li> </ul> <hr/> <p>日田林工高校については、地域産業や誘致企業等に対応した学科改編を行う。</p>

( ) 統合方法については、開校初年度から年次ごとに段階的に統合する方法を基本とする。  
( P 1 6 参照 )

中津・宇佐地域

安心院高校は存続する。(連携型中高一貫教育の継続)

【理由】

(1) 連携型中高一貫教育校としての実績があがっている。

連携先の地元中学校卒業生の約87%が進学しており、地元から支持されている。

連携先中学校：安心院中学校、院内中学校

(平成19年4月に安心院、津房、深見中学校が統合して安心院中学校)

	H13.3卒	H14.3卒	H15.3卒	H16.3卒	H17.3卒	H18.3卒	H19.3卒	H20.3卒
安心院高校への進学者数(人)	107	117	112	105	118	101	109	94
連携先中学校卒業生数(人)	130	145	139	132	136	116	125	107
進学率(%)	82.3	80.7	80.6	79.5	86.8	87.1	87.2	87.9

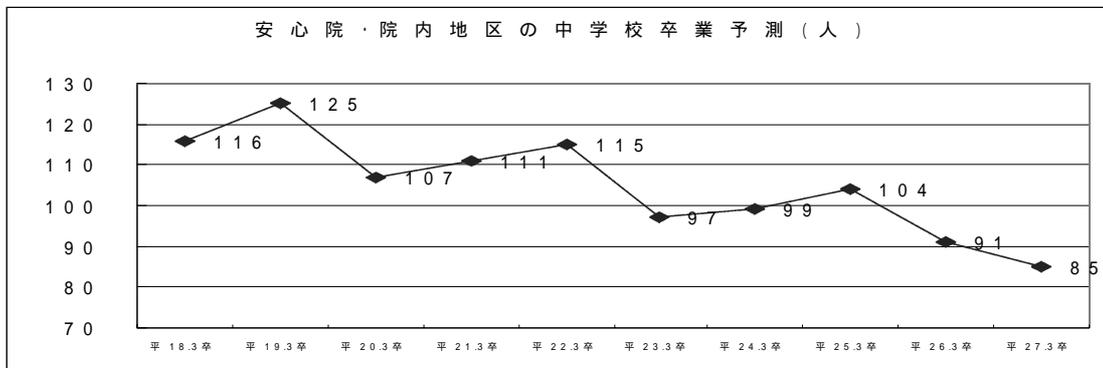
(2) 交通の便が悪く、他校と統合した場合、多くの生徒が遠距離通学となる。

安心院中心部から宇佐高校までの1ヶ月バス通学定期代は24,300円。

分校として存続している中津南高校耶馬溪校よりも通学に費用がかかる。

(耶馬溪校から中津駅までの1ヶ月バス通学定期代23,820円)

< 参考 >



< 参考 > 安心院高校の進路状況(延べ人数)

	進学(合格者数)	4年制大学						専修学校	就職	公務員
		4年制大学			短大					
		国公立	私立	計	国公立	私立	計			
H20.3卒	109(115)	28(29)	35	63(64)	5	7	12	32	31	4
H19.3卒	88(88)	21(21)	28	49(49)	4	7	11	28	30	13
H18.3卒	94(94)	16(16)	36	52(52)	0	8	8	34	24	4
H17.3卒	112(117)	23(28)	37	60(65)	6	8	14	38	27	4
H16.3卒	77(79)	17(19)	19	36(38)	1	14	15	26	41	2

( ) 過年度生を含めた数

## 別枠・速見地域

山香農業高校と日出暘谷高校を統合する。

[校地：日出暘谷高校]

- ・農業系学科・工業系学科と総合学科による総合選択制高校とする。

5学級程度（農業系学科1学級・工業系学科1学級・総合学科3学級程度）

- ・山香農業高校の農場や宿泊施設等は、新設校及び農業系学科を設置する高校の施設として活用するとともに、県内の児童・生徒及び教職員等の実習の場、研修の場、体験の場としての新たな活用を図り、農業を通じて広く人材育成を推進する。

### 【理由】

(1) 山香農業高校は1学年2学級の小規模校であり、また地元中学校からの進学者が少ない。

( ) 地元中学校を山香中、北部中、上中とする。

	H16.3卒	H17.3卒	H18.3卒	H19.3卒	H20.3卒
山香農高への進学者数(人)	8	13	10	5	8
地元中学卒業生数(人)	85	76	75	81	65
÷ (%)	9.4	17.1	13.3	6.2	12.3
入試欠員数	0	0	0	9	0

山香農業高校出身中学校別生徒数(人) 第1学年81人 (平成20年度)

	学校名	生徒数(人)	日出・杵築以外	生徒数(人)
日出町 (15人)	日出中	12	別府市	24
	大神中	3	中津市	4
	南端中	0	豊後高田市	4
杵築市 (24人)	山香中	5	宇佐市	5
	北部中	1	大分市	3
	上中	2	日田市	1
	杵築中	10	臼杵市	1
	大田中	2		
	宗近中	4		

(2) 生徒・保護者の進路希望状況や高校入試状況によると、山香農業高校を1学年4学級以上の単独校として存続することは難しい。

(3) 山香農業高校と日出暘谷高校が発展的に統合して総合選択制高校となることにより、農業だけでなく他学科についても学習できるなど、幅広い知識や技術を持った人材を育成することができる。

工業系学科については、これまでの総合学科の系列から学科としての位置付けとする。

(4) 山香農業高校の農場、宿泊施設等については、県教育委員会と知事部局等が連携し、日出暘谷高校の校地に新設する高校や大分東高校に設置する農業科の実習の場として、また、県内の児童・生徒及び教職員等の研修の場、体験の場としての新たな活用を図る。

## 別府・速見地域

別府青山高校と別府羽室台高校を統合する。

[校地：別府青山高校]

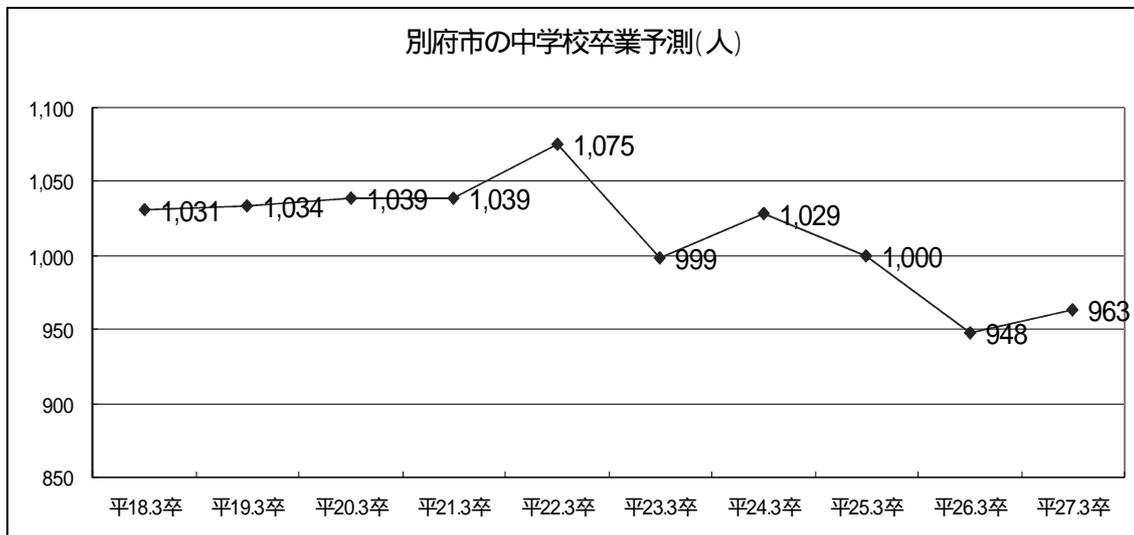
・普通科と外国語科による単位制高校とする。

6学級程度（普通科5学級・外国語科1学級程度）

・外国語科を中心として、立命館アジア太平洋大学（APU）との連携をより一層強めるため高大連携を推進する協議会を設置し、生徒のニーズに対応した特色ある学校づくりをすすめる。

### 【理由】

(1) 別府市内の中学校卒業生数は、平成18年から平成26年で約80人（2学級分）減少する。



[ 別府市内の公立高校（平成20年度 第1学年学級数） ]

別府鶴見丘高校（6） 別府青山高校（4） 別府羽室台高校（4）

市立別府商業高校（4）

(2) 別府青山高校は、平成19年度から単位制を導入した。

別府羽室台高校は、文部科学省からスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール(S E L H i)の指定(H17~19)を受けた。

新設校は両校の成果を継承・発展した単位制高校とする。

## 大分・由布地域

由布高校は、市民からの支援・協力体制を前提に連携型中高一貫教育を導入することにより、今後1学年4学級以上の学校として地域の生徒が確保できることの可能性について検討する。

- ・連携型中高一貫教育の導入にあたっては、市民の理解と協力体制が不可欠であり、地元中学校から由布高校への進学者が確実に増えることが見極められることが必要である。

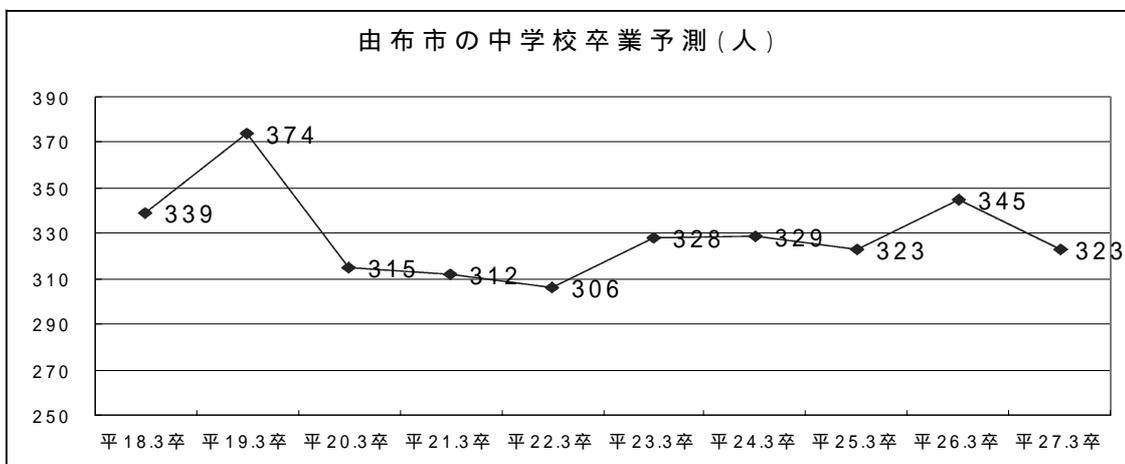
### 【理由】

- (1) 由布市、由布市議会、由布市教育委員会、由布市自治委員会等から「1市1校」の県立高校存続という強い要望があり、また由布市長から具体的な提案があった。

#### 具体的な提案内容

由布市内の中学校と由布高校との連携型中高一貫教育を導入する。  
由布市が連携型中高一貫教育の導入に係る教職員の応分の負担をする。  
由布市が由布高校への通学に対してコミュニティバス（スクールバス）を運行する。  
由布市が由布高校生徒への奨学金の拡充を行う。

- (2) 由布市には毎年300人を超える中学校卒業者が在り、今後も大きな変化はないことが予測され、連携型中高一貫教育を導入するための生徒数は充足している。



- (3) 由布市は交通の便が良く、大分市内の高校への進学が通常化しており、連携型中高一貫教育を導入するためには魅力ある学校づくりと、特に地元からの強力な支援が不可欠である。

- (4) 連携型中高一貫教育を導入するための前提条件として、

由布市からの市民に対する周知と理解、市民の協力体制が不可欠である。

由布市内の中学校から由布高校への進学者が確実に増えることが見極められることが必要である。

< 由布市の中学校卒業生 316 人の進路状況 (平成 20 年 3 月卒) >

学 校 名	生徒数(人)	学 校 名	生徒数(人)
大分上野丘高校	7	大分西高校	15
大分舞鶴高校	6	芸術緑丘高校	3
大分雄城台高校	38	大分鶴崎高校	1
大分南高校	13	鶴崎工業高校	3
大分豊府高校	20	情報科学高校	2
大分工業高校	14	大分東高校	0
大分商業高校	12	合 計	143

通学区等	生徒数(人)	学校名	生徒数(人)
第1通学区内の高校	0	特別支援学校	0
第2通学区内の高校	5	大分工業高等専門学校	8
第4通学区内の高校	0	私立高校	63
第5通学区内の高校	0	県外の高校	1
第6通学区内の高校	26	就職等	11
定時制・通信制高校	1	合 計	115

学 校 名	生徒数(人)
由布高校	58

( ) 由布市の中学校卒業生316人の内訳

- ・大分市内の県立高校143人(45.2%)
- ・大分市以外の高校等115人(36.4%)
- ・由布高校 58人(18.4%)

合計 316人

( ) 由布市内の中学校：挟間中学校、庄内中学校、湯布院中学校

大分・由布地域

芸術緑丘高校は存続する。

【理由】

- (1) これまでも大分県の情操教育の中核的な役割を果たしており、特色ある学校として広く県内外から持続的なニーズがある。
- (2) 県立大学等公立大学法人化検討委員会報告書には、芸術文化短期大学と芸術緑丘高校との密接な連携の必要性が示されている。附属高校ではないが、将来も含めて密接な連携を保つには、現在の位置がよい。

県立大学等公立大学法人化検討委員会報告書

「県立大学等の在り方と法人化について」

平成17年1月 県立大学等公立大学法人化検討委員会（大分県）

【報告書：2 芸術文化短期大学の将来の在り方】

「附属緑丘高校については、法人化された場合、附属関係は解消されることになるが、芸術教育において一貫性は重要であり、学生の進学や教員の交流等の面で、密接な連携を保つ必要がある。」

芸術緑丘高校から芸術文化短期大学への合格者数（平成20年3月卒）

19名（音楽科13名、美術科6名）

- (3) 芸術緑丘高校には広く県内から生徒が通学している。生徒の通学にとっては、JR大分駅に近い現在の位置に学校があることがよい。

<参考> 芸術緑丘高校出身中学校別生徒数（人）（平成20年度）

中学校名	1年	2年	3年	計	占める比率	
大分市						
碩田中	0	1	0	1	0.4%	大分市 121人 53.5%
上野ヶ丘中	3	0	1	4	1.8%	
王子中	2	3	1	6	2.7%	
大分西中	1	2	1	4	1.8%	
大南大分中	7	1	4	12	5.3%	
城南中	1	0	2	3	1.3%	
滝尾中	6	6	1	13	5.8%	
城東中	1	0	5	6	2.7%	
明野中	4	1	4	9	4.0%	
龍崎中	1	2	1	4	1.8%	
大東中	1	4	1	6	2.7%	
東陽中	1	0	2	3	1.3%	
東戸次中	1	2	2	5	2.2%	
植田中	0	1	0	1	0.4%	
植田東中	3	1	2	6	2.7%	
植田西中	1	0	2	3	1.3%	
植田南中	1	5	3	9	4.0%	
判田中	0	1	0	1	0.4%	
賀来中	1	2	1	4	1.8%	
坂ノ市中	3	2	3	8	3.5%	
大在中	2	2	4	8	3.5%	
大分大附属中	0	1	2	3	1.3%	
野津原中	0	1	0	1	0.4%	
県立(盲)	0	0	1	1	0.4%	
大分県外						
中津市	0	6	2	8	3.5%	大分県内 99人 43.8%
豊後高田市	2	2	1	5	2.2%	
宇佐市	1	3	1	5	2.2%	
国東市	1	1	3	5	2.2%	
杵築市	0	1	2	3	1.3%	
速見郡	1	2	2	5	2.2%	
別府市	10	7	8	25	11.1%	
由布市	3	5	5	13	5.8%	
臼杵市	2	2	0	4	1.8%	
津久見市	2	1	3	6	2.7%	
佐伯市	1	2	0	3	1.3%	
豊後大野市	2	1	0	3	1.3%	
豊竹市	2	1	1	4	1.8%	
臼田市	2	3	2	7	3.1%	
玖珠郡	0	0	3	3	1.3%	
神奈川	1	0	0	1	0.4%	
広島	0	1	0	1	0.4%	
福岡	1	0	0	1	0.4%	
宮崎	0	1	2	3	1.3%	
合計	71	77	78	226		県外 6人 2.7%

## 大分・由布地域

大分東高校の国際コミュニケーション科を廃止し、農業系学科を設置する。

- ・普通科と農業系学科による総合選択制高校とする。

6学級程度（普通科4学級・農業系学科2学級程度）

- ・農業系学科は、進学や新しいタイプの都市型農業を目指し、現山香農業高校の農場や宿泊施設等の有効活用も図る。

### 【理由】

- (1) 大分市に農業に関する学科を設置する。

前期再編整備計画の考え方を踏まえ、農業に関する学科を県内にバランスよく配置する。

進学や、新しいタイプの都市型農業を目指す農業系学科を新設する。

(学習内容例)

草花栽培、植物バイオ、食品製造、微生物バイオ、環境、セラピー等

校内の施設で実験・実習するとともに、現山香農業高校の農場や宿泊施設等の有効活用を図る。

### 平成20年度 農業に関する学科が設置されている高等学校の配置状況（第1学年）



- (2) 大分市東部（大在、坂ノ市）地区の人口増加に対応する。

大在、坂ノ市地区は人口が増えている。

少子化の中で、この地区の生徒数は減少していない。

< 大在、坂ノ市の中学校在籍者数と人口推移（住民登録人口） > (人)

	大在、坂ノ市の中学校在籍者数	大在	坂ノ市	大在、坂ノ市人口合計
昭和51年	980	7,919	13,807	21,726
昭和61年	1,384	9,422	14,841	24,263
平成8年	1,074	17,391	14,601	31,992
平成18年	1,075	23,239	16,110	39,341

## 臼津地域

野津高校を廃止し、大分南高校に福祉系の学科を設置する。

- ・普通科と福祉系学科とする。

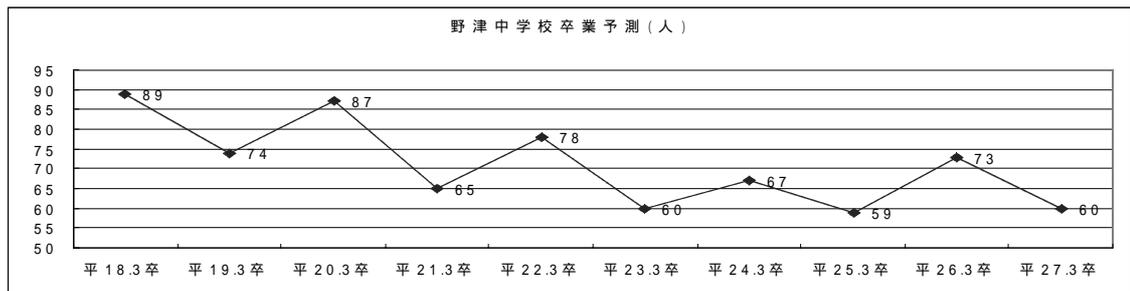
8学級程度（普通科6学級・福祉系学科2学級程度）

- ・福祉系学科は、介護福祉士国家試験の受験資格が取得できる学科とする。

### 【理由】

- (1) 野津高校は地元野津中学校からの進学者が少なく、今後も地元の生徒数が減少する。  
また、年ごとに欠員数が増加している。

	H16.3卒	H17.3卒	H18.3卒	H19.3卒	H20.3卒
野津高校への進学者数(人)	5	9	16	12	13
地元中学卒業生数(人)	82	86	89	74	87
÷ (%)	6.1	10.5	18.0	16.2	14.9
入試欠員数	0	12	13	21	28



- (2) これまでの中学校卒業者の進路状況及び生徒・保護者の進路希望等から、野津高校を1学年4学級以上の高校として存続することは難しい。

- (3) 野津高校は、大分市、野津町、豊後大野市の中学校からの進学者が多い。

野津高校出身中学校別生徒数(人) 第1～3学年170人 (平成20年度)

	野津町	旧臼杵市	大分市	豊後大野市	佐伯市	津久見市	竹田市	その他
生徒数	41	20	44	33	13	10	2	7

- (4) 大分南高校は、大分市内の高校では野津町から近く、校地は広い。

### <参考>

「社会福祉士及び介護福祉士法等の一部を改正する法律」(平成19年12月5日公布)  
介護福祉士の資質向上を図るため、下記のとおりに変更となった。

現行	改正後
福祉系高校の養成課程(1,190時間)を経た上で、国家試験を受験。	福祉系高校の養成課程(1,800時間程度)を経た上で、国家試験を受験。 【平成21年度入学生から】

## 臼津地域

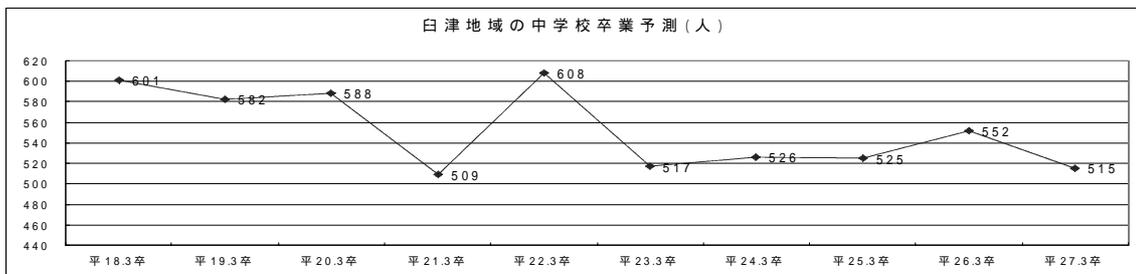
臼杵商業高校、海洋科学高校、津久見高校を統合する。 [校地：津久見高校]  
 海洋科学高校は現在地で、その分校とする。

- ・本校は、普通科・工業系学科・商業系学科による総合選択制高校とする。  
 6学級程度（普通科2学級・工業系学科2学級・商業系学科2学級程度）
- ・分校は、水産系学科1学級とする。

### 【理由】

(1) 臼津地域は、小規模校が多い。

[ 臼津地域の公立高校（平成20年度 第1学年学級数） ]  
 臼杵高校（5） 臼杵商業高校（2） 海洋科学高校（2）  
 野津高校（2） 津久見高校（4）



(2) 臼杵商業高校はこれまでの高校入試状況や今後の中学校卒業生数の推移を勘案すると、1学年4学級以上の学校として存続することは難しい。

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
入学定員	80	80	80	80	80
一次終了時の欠員数	8	6	14	8	0
最終的な欠員数	3	4	0	2	0

(3) 海洋科学高校は入学者選抜において欠員が多く、1学年2学級としての存続は難しい。

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
入学定員	80	80	80	80	80
一次終了時の欠員数	15	5	16	26	40
最終的な欠員数	11	0	12	16	29

(4) 臼津地域において、臼杵市には普通科単独の臼杵高校、津久見市には普通科と専門学科を併置した新設校を設置する。

(5) 津久見高校は校地が広く、施設等を有効活用できる。

(6) 水産業に関する学科は本県唯一の学科であり、水産業を担う人材を育成するためには、学科の存続が必要であることから、海洋科学高校は現在地で、新設校の分校とする。

## 佐伯地域

佐伯豊南高校と佐伯鶴岡高校を統合する。

[校地：佐伯鶴岡高校]

・農業系学科・工業系学科・福祉系学科と総合学科による総合選択制高校とする。

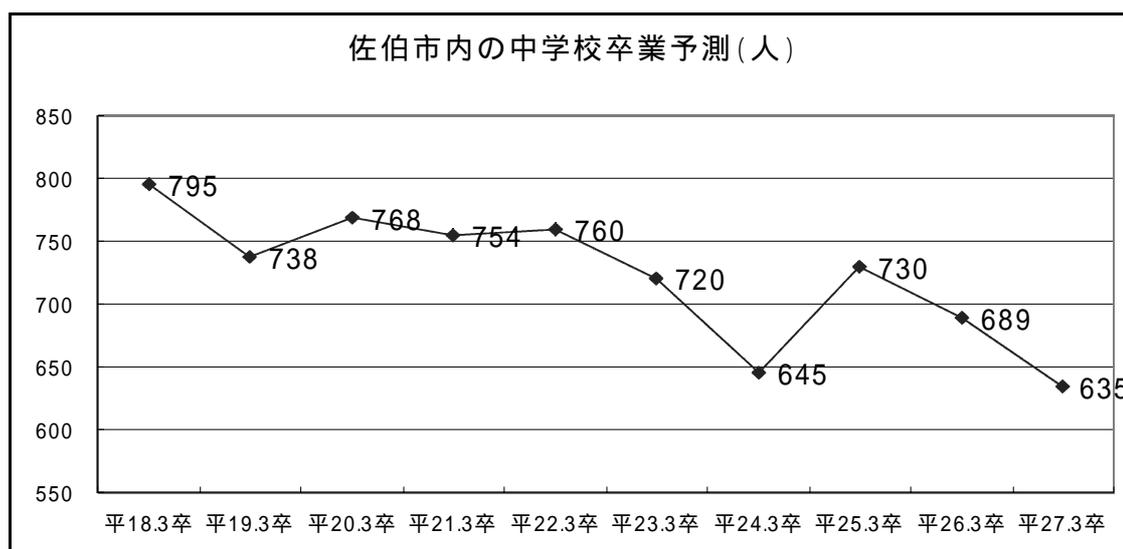
6学級程度（農業系学科1学級・工業系学科1学級・福祉系学科1学級・総合学科3学級程度）

・福祉系学科は、介護福祉士国家試験の受験資格が取得できる学科とする。

### 【理由】

(1) 佐伯市には普通科の佐伯鶴城高校と、専門学科と総合学科を併置した新設校を設置する。

佐伯市内の中学校卒業生数は今後も減少を続け、平成27年3月には635人となり、前期再編整備が始まった平成18年3月より160人（4学級分）減少することから、2校の県立高校とする。



(2) 地域ニーズに対応した福祉系学科を新たに設置する。

(3) 佐伯鶴岡高校は校地が広く、農業・工業施設等を有効活用できる。

日田・玖珠地域

玖珠農業高校と森高校を統合する。

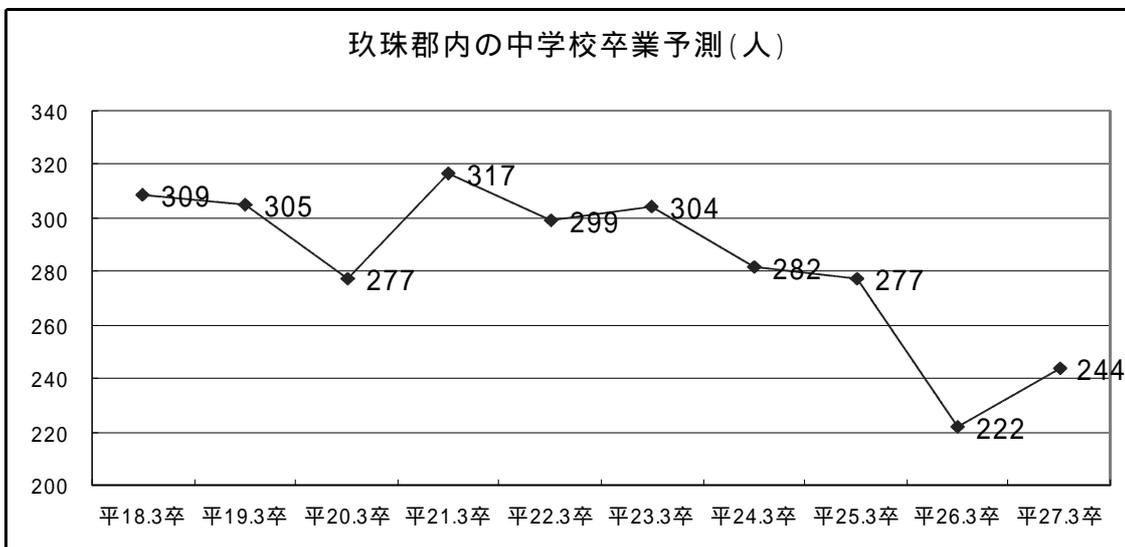
[校地：玖珠農業高校]

・普通科と農業系学科による総合選択制高校とする。

5学級程度（普通科4学級・農業系学科1学級程度）

【理由】

(1) 玖珠郡の中学校卒業生数は今後も減少を続け、平成27年3月には244人となり、前期再編整備が始まった平成18年3月より65人減少する。



(2) 生徒・保護者の進路希望状況や高校入試状況によると、玖珠農業高校を1学年4学級以上の単独校として存続することは難しい。

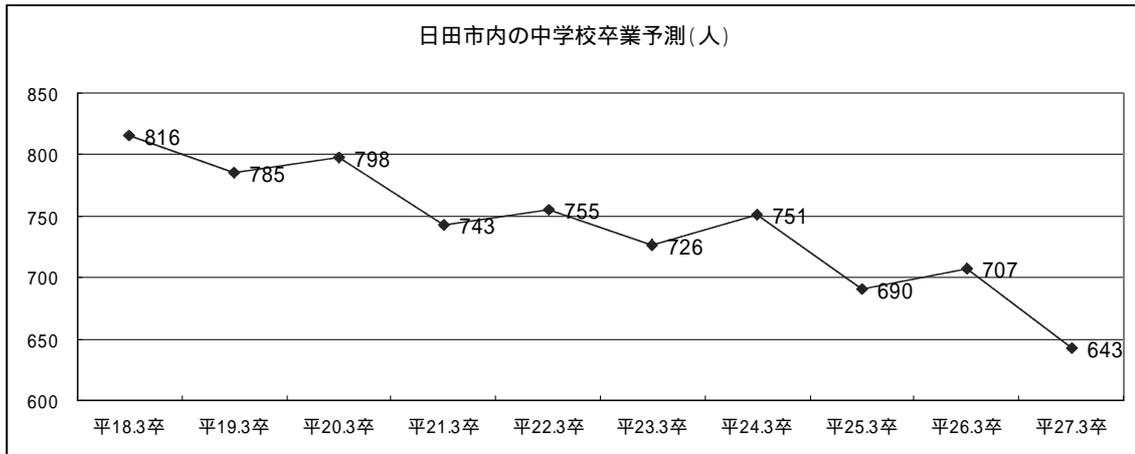
(3) 玖珠農業高校の農業施設等を有効活用した新設校を設置する。

日田・玖珠地域

日田林工高校については、地域産業や誘致企業等に対応した学科改編を行う。

【理由】

(1) 日田市内の中学校卒業生数は今後も減少を続け、平成27年3月には643人となり、前期再編整備が始まった平成18年3月より173人減少する。



(2) 日田林工高校は1学科1学級となっており、今後も生徒数が減少することから学科の見直しが必要となる。

日田林工高校の設置学科及び学級数・定員(平成20年度 第1学年)

学校名	学 科 名		学級数	定 員
日田林工高校	農 業 科	林 業	1	40
		林産工学	1	40
	工 業 科	機 械	1	40
		電 気	1	40
		建 築	1	40
		土 木	1	40
合 計			6	240

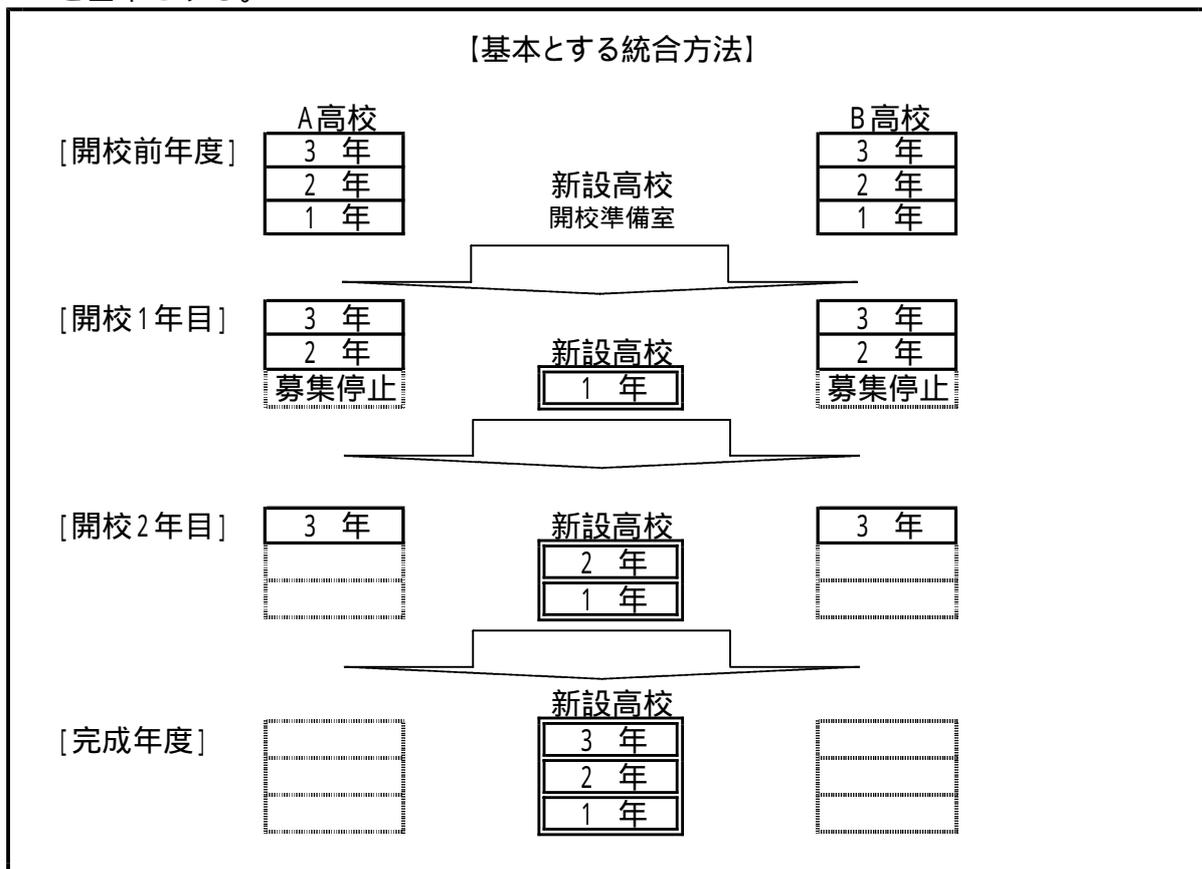
日田高校、日田三隈高校の設置学科及び学級数・定員(平成20年度 第1学年)

学校名	学科名	学級数	定 員
日 田 高 校	普 通 科	7	280
日田三隈高校	総合学科	4	160

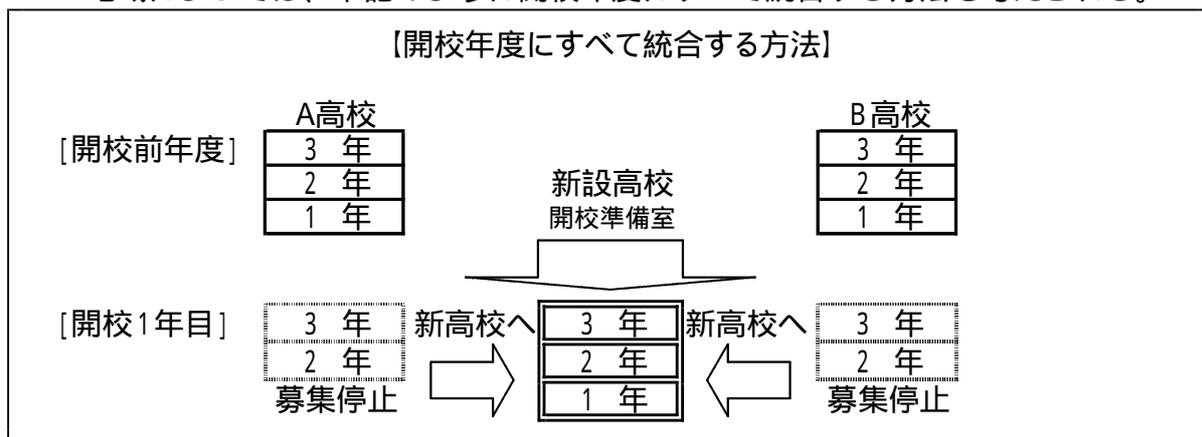
(3) 日田林工高校の学級減が見込まれることから、地域産業や誘致企業等のニーズを踏まえた地域人材の育成を図るため、林業や機械、電気を中心とした学科改編を行う。

#### 4 統合方法

統合方法については、開校初年度から年次ごとに段階的に統合する下記の統合方法を基本とする。



地域によっては、下記のように開校年度にすべて統合する方法も考えられる。



#### 5 統合（開校）年度等

統合（開校）年度等の設定については、予想される中学校卒業生数の推移、対象となる学校の実態、地域の実情、全県的なバランス等を総合的に勘案して決定する。

**【参考資料】**

「高校改革」の経緯

前期（平成17～21年度）再編整備計画の進捗状況

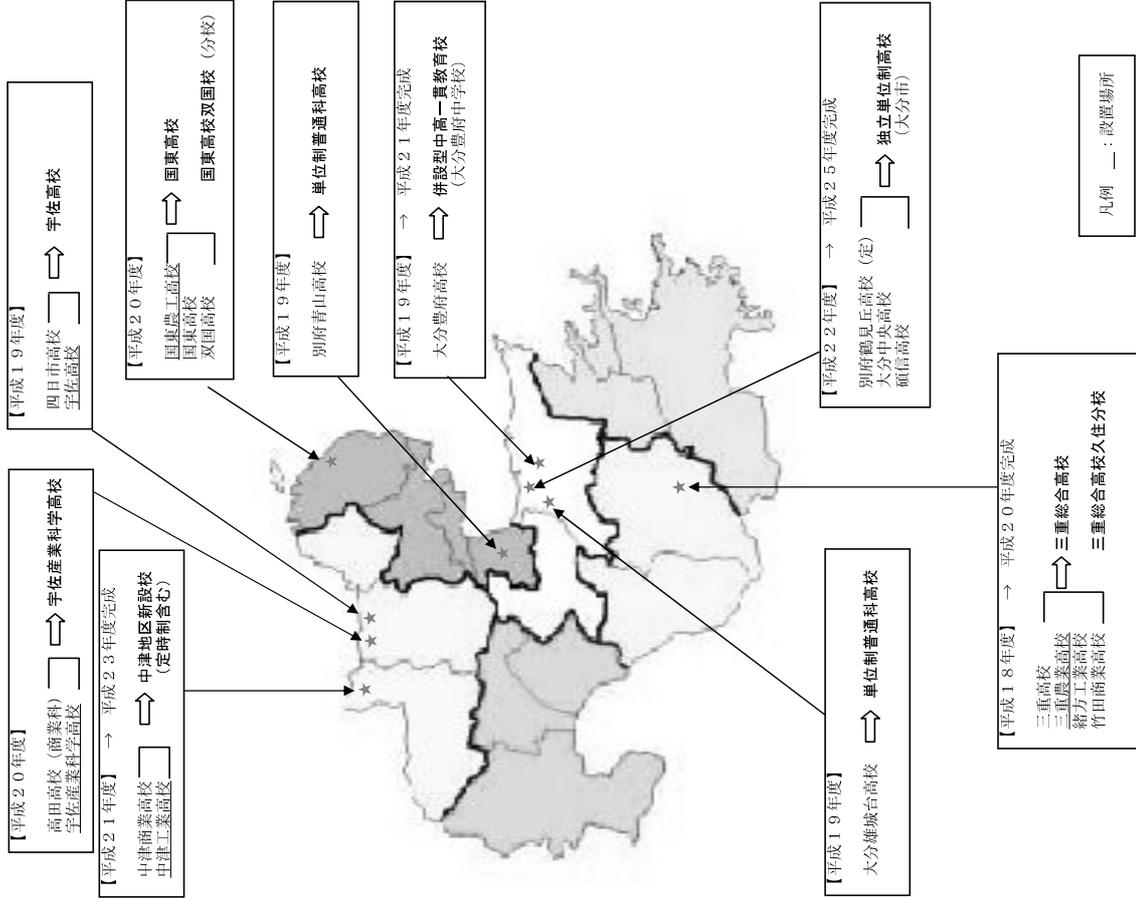
平成20年度全日制公立高等学校 学校規模別一覧  
（第1学年学級数）

「高校改革」の経緯

年 月	内 容
平成 5年 5月	大分県学校教育審議会答申 「生徒減少期に対応する高等学校教育の在り方について」 ・高等学校入学者選抜制度の改善 ・学校・学科の規模・配置の適正化
平成 11年 7月	大分県公立高等学校適正配置等懇話会報告 「大分県立高等学校の学校規模の適正化及び学校・学科の適正配置等の在り方について」 ・学校規模適正化及び学校・学科の適正配置 ～募集停止基準の設定、普通科、総合学科の配置等について提言～ ・社会の変化等に対応した高等学校教育の在り方 ～単位制高校の設置、中高一貫教育の導入、女子高等学校の改編、新しい学科の設置検討が必要と提言～
平成 16年 12月	高等学校改革プラン検討委員会報告 「今後の県立高等学校の在り方について」 ・高等学校の再編整備、通学区域制度の見直し、高等学校入学者選抜制度の改善 ～再編整備指針、平成 21年度までの再編整備計画、新しいタイプの学校、通学区域の拡大、教職員の意識改革について提言～
平成 17年 3月	高等学校改革プラン検討委員会報告を踏まえ、 「高校改革推進計画」策定 10年後（平成 26年度）の高等学校の在るべき姿を見据え、「再編整備指針」に基づき当面 21年度までの前期再編整備計画を示す 高校改革に関する説明会等 （平成 19年 10月まで 95カ所 約 12,000人）
平成 19年 10月	「後期（平成 22～26年度）再編整備計画」の策定に着手 第 1 回高等学校再編整備懇話会 ・前期再編整備計画の成果・課題の説明と後期再編整備計画の基本的な考え方を示す
平成 20年 1月	第 2 回高等学校再編整備懇話会 ・検討素案発表
1月～	地域別高校再編懇話会（6地域） 地域別説明会（各地）
4月	第 3 回高等学校再編整備懇話会 ・地域別懇話会・説明会の報告

前期（平成17～21年度）再編整備計画の進捗状況（平成17年3月29日「高校改革推進計画」策定）

対象校等	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
三重総合高校 (三重・三重商業・ 緒方工業・竹田商 業の統合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三重、三重商業、緒方工業、竹田商業最後の入学生</li> <li>○三重商業高校内に「新設高校開校準備室」を設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○募集停止(2・3年生が残り)</li> <li>○三重総合高校開校1年生のみ在籍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3年生のみ在籍</li> <li>○年度末に4校閉校</li> <li>○三重総合高校1・2年生在籍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○三重総合高校全学年在籍</li> </ul>	
宇佐高校 (四日市・宇佐の統 合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会の具体的な活動(統合に向けた教育課程や学校行事、同窓会等の調整)</li> <li>○両校の1年生は3年次(19年度)に同じ新設校の生徒となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新設高校開校準備室」を宇佐高校内に設置</li> <li>○1年生は2年次、宇佐高校の2・3年生が同じ新設校の生徒となる。</li> <li>○全校生徒702人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宇佐高校開校1年生を募集と同時に四日市・宇佐高校の2・3年生が同じ新設校の生徒となる。</li> <li>○全校生徒702人</li> </ul>		
大分豊府 中高一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大分豊府高校内にプロジェクトチームの立ち上げ(高校8学級)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「県立中学校開校準備室」を設置(高校8学級)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大分豊府中学校開校(中学1年：3学級、高校1年：8学級、2年：8学級、3年：8学級)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○大分豊府中学校全学年在籍</li> </ul>
大分雄城台・ 別府青山高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内プロジェクトチームの立ち上げ調査・研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育課程等整備、広報等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単位の導入</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○全学年に単位制導入</li> </ul>
独立単位制高校 (頓信・大分中央・ 別府鶴見丘(定) の統合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校改革推進室内業務として調査・研究</li> <li>○文部科学省委嘱事業の活用</li> <li>○ステップ・アップ協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○調査・研究業務として調査・研究</li> <li>○文部科学省委嘱事業の活用</li> <li>○ステップ・アップ協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○独立単位制高校基本構想検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校改革推進室内に単位制高校開校準備室を設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成22年4月開校</li> </ul>
宇佐産業科学 高校 (高田高校の商業科 を統合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宇佐産業科学高校内にプロジェクトチームの立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宇佐産業科学省委嘱事業の活用</li> <li>○ステップ・アップ協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロジェクトチームによる調査・研究</li> <li>○中学校等への広報</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成19年度</li> </ul>
国東高校 (国東工・国東・双 国の統合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○統合のための協議会の設置(円滑な統合に向けた具体的な協議について)</li> <li>○平成18年度入試に係る申し合わせ事項のすり合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協議会の具体的な活動(統合に向けた学校行事、同窓会等の調整)</li> <li>○平成18年度入試に係る申し合わせ事項のすり合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「新設高校開校準備室」を国東工業内に設置</li> <li>○1年生は2年次、2年生は3年次に同じ新設校の生徒となる。</li> <li>○双国高校は分校となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新設校1年生を募集と同時に、国東と国東工業の2・3年生が同じ新設校の生徒となる。</li> <li>○双国高校は分校となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【平成22年度】 → 平成25年度完成</li> <li>別府鶴見丘高校(定)</li> <li>大分中央高校</li> <li>頓信高校</li> <li>⇨ 独立単位制高校(大分市)</li> </ul>
中津地区新設校 (中津商業・中津工 業の統合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内プロジェクトチームの立ち上げ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内プロジェクトチームによる調査・研究</li> <li>○学級・学級数決定(19年3月)</li> <li>○協議会の具体的な活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロジェクトチームによる調査・研究</li> <li>○学級名・学級数決定(19年3月)</li> <li>○「新設高校開校準備室」を中津工業内に設置</li> <li>○学級名・学級数決定予定(20年3月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中津商業、中津工業最後の入学生</li> <li>○「新設高校開校準備室」を中津工業内に設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【平成18年度】 → 平成20年度完成</li> <li>三重高校</li> <li>三重農業高校</li> <li>緒方工業高校</li> <li>竹田商業高校</li> <li>⇨ 三重総合高校</li> <li>⇨ 三重総合高校久住分校</li> </ul>



平成20年度全日制公立高等学校 学校規模別一覽(第1学年学級数)

地域	学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	合計
中津・宇佐・高田		耶馬溪校	中津商業 宇佐産業科学	安心院	高田 宇佐産業科学	中津南 中津北 中津工業	宇佐			9校
国東・別府・遠見		双国校	山香農業		日出陽谷 別府青山 別府羽室台 別府商業		国東 杵築 別府鶴見丘			9校
大分・由布			芸術緑丘 由布		大分東	情報科学	大分雄城台 大分南 大分西	大分工業 大分商業 鶴崎工業	大分上野丘(9) 大分舞鶴 大分豊府 大分鶴崎	14校
臼津・佐伯			臼杵商業 海洋科学 野津	佐伯鶴岡	津久見	臼杵 佐伯豊南	佐伯鶴城			8校
豊後大野・竹田		久住校				竹田	三重総合			3校
日田・玖珠			玖珠農業		森 日田三隈		日田林工	日田		5校
合計		3校	8校	2校	10校	7校	10校	4校	4校	48校
%		6.3%	16.7%	4.2%	20.8%	14.6%	20.8%	8.3%	8.3%	100.0%

高校改革推進計画  
後期再編整備計画（中間まとめ）  
〔平成22～26年度〕  
～ 特色・魅力・活力ある学校づくりに向けて ～

---

大分県教育庁高校改革推進室  
〒870-8503  
大分市府内町3丁目10番1号  
電話(097)536-1111（内線5606）  
FAX (097)506-1796  
<http://koukoukaikaku.oita-ed.jp/>  
e-mail a31240@ed.pref.oita.lg.jp

---